

# 公益社団法人 始良地区医師会 定款

## 目 次

- 第 1 章 名称及び事務所（第 1 条—第 2 条）
  - 第 2 章 目的及び事業（第 3 条—第 4 条）
  - 第 3 章 会員（第 5 条—第 12 条）
  - 第 4 章 総会（第 13 条—第 23 条）
  - 第 5 章 役員及び会計監査人等（第 24 条—第 38 条）
  - 第 6 章 理事会（第 39 条—第 43 条）
  - 第 7 章 裁定委員会（第 44 条—第 50 条）
  - 第 8 章 委員会（第 51 条）
  - 第 9 章 団体契約及び意見表明（第 52 条—第 53 条）
  - 第 10 章 資産及び会計（第 54 条—第 61 条）
  - 第 11 章 事務局（第 62 条）
  - 第 12 章 雑則（第 63 条—第 67 条）
- 附 則

## 第1章 名称及び事務所

### (名称)

第1条 本会は、公益社団法人始良地区医師会と称する。

### (事務所)

第2条 本会は、主たる事務所を鹿児島県霧島市に置く。

## 第2章 目的及び事業

### (目的)

第3条 本会は、日本医師会及び鹿児島県医師会との連携のもと、医道の高揚、医学及び医術の発達並びに公衆衛生の向上を図り、もって社会福祉を増進することを目的とする。

### (事業)

第4条 本会は、前条の目的を達成するため、次の各号に掲げる事業を行う。

- (1) 医道の振作高揚に関する事項
- (2) 地域の公衆衛生への寄与に関する事項
- (3) 地域医療の推進発展に関する事項
- (4) 医学の振興に関する事項
- (5) 医学教育の向上に関する事項
- (6) 医師の生涯教育に関する事項
- (7) 医療保険・介護保険の充実に関する事項
- (8) 医療経営の安定、会員の福祉向上による地域住民の健康及び福祉の増進に関する事項
- (9) 学校保健の研究及び改善に関する事項
- (10) 地域保健・福祉の向上に関する事項
- (11) 霧島市立医師会医療センターの管理運営に関する事項
- (12) 訪問看護事業及び居宅介護支援事業に関する事項
- (13) 看護師その他医療従事者の養成に関する事項
- (14) 会員の相互扶助に関する事項
- (15) その他本会の目的を達成するために必要な事項

2 前項の事業は、始良郡、始良市、霧島市及びその周辺において行うものとする。

### 第3章 会 員

#### (組 織)

第5条 本会は、第6条及び第7条の規定により入会した医師をもって組織する。

#### (会員の資格及びその喪失)

第6条 本会会員は、始良郡、始良市及び霧島市の区域内において就業所（就業所を有しないものについては住所）を有する医師のうち、本会の目的及び事業に賛同したものををもって会員とする。

2 前項の会員をもって一般社団法人及び一般財団法人に関する法律（以下「法人法」という。）上の社員とする。

3 会員は、同時に鹿児島県医師会及び日本医師会の会員となる。

4 本会会員が日本医師会又は鹿児島県医師会の会員の資格を失ったときは、同時に本会の会員の資格を失う。

5 前項の他、会員は、次に掲げる事由によって会員の資格を失う。

(1) 第12条（会員の制裁）の規定による除名

(2) 退会又は死亡

(3) 第8条第1項に違反し、2年間会費又は負担金の支払いが滞ったとき

#### (入会、異動及び退会)

第7条 本会に入会しようとする者は、本会に所定の届出をし、理事会の承認を受けなければならない。

2 会員で退会しようとする者は、本会に所定の届出をすることにより、任意にいつでも退会することができる。

3 会員でその届出事項に変更を生じた場合は、前2項と同様に、その届出をしなければならない。

4 本会を除名された者で再入会しようとするものについては、裁定委員会の審議裁定を経て、会長がその再入会を承認することができる。

5 第2項の規定にかかわらず、会長は、第12条第6項（会員の制裁）の審議にかかっている会員からの退会届出の受理を保留し、同条第1項に基づく処分を行うことができる。

#### (会費及び負担金)

第8条 会員は、本会所定の会費及び負担金を本会に納入しなければならない。

2 会費及び負担金の額並びにその徴収方法は、総会で定める。ただし、特別の事情がある者に対しては、社員総会の決議を経て、その額を減免することができる。

きる。

3 会員が既に納入した会費、負担金その他の拠出金品は、返還しない。

(会員の本務)

第9条 会員は、医師の倫理を尊重し、社会の信頼と尊敬を得るように努めなければならない。

2 会員は、本会の定款を守り、その秩序を維持するように努めなければならない。

(報告、発表及び意見具申)

第10条 会員は、本会の目的及び事業に関して研究又は調査を行い、その結果を本会に報告し、発表することができるとともに、本会の目的及び事業について意見を具申することができる。

(表彰)

第11条 本会のために著しい功績をあげた者に対しては、別に定めるところにより、表彰することができる。

(会員の制裁)

第12条 会員が次の各号のいずれかに該当するとき、又はその他正当な事由があると認められるときは、裁定委員会の審議裁定を経て、制裁を科することができる。

(1) 医師の倫理に違反し、会員としての名誉又は本会の名誉を毀損したものの。

(2) 本会の定款に違反し、又は本会の秩序を著しく乱したものの。

2 前項の制裁は、戒告及び除名とする。

3 戒告は、会長が理事会の決議を経て行う。

4 除名は、総会の決議を経て行う。

5 第3項又は前項の規定により戒告又は除名の処分をしたときは、会長は、当該会員に対しその旨通知するとともに、その氏名及び処分事由の概要を、鹿児島県医師会及び日本医師会に通知しなければならない。

6 裁定委員会は、第1項の規定による会員の制裁に当たり、会長より付託を受けた案件について審議裁定を行い、その結果を会長に報告しなければならない。

## 第4章 総 会

(総会)

第13条 総会は、すべての会員をもって組織し、法令に別段の定めがある場合

を除き、理事会の決議に基づき会長が招集する。

2 総会を法人法上の社員総会とする。

(定時総会及び臨時総会)

第14条 総会は、定時総会及び臨時総会の2種とする。

2 定時総会は、毎年1回、会計年度終了後3月以内に招集しなければならない。

3 臨時総会は、理事会の決議を経て、会長が招集する。ただし、5分の1以上の会員から、会議の目的である事項及びその理由を記載した書面をもって、臨時総会招集の請求があったときは、会長は、当該請求があった日から6週間以内に臨時総会を招集しなければならない。

4 総会を招集するには、会議の目的である事項、日時及び場所その他法令で定める事項を記載した書面による通知を、開催日の1週間前までに会員に発しなければならない。

(総会の議長及び副議長の選出)

第15条 総会に、議長及び副議長各1名を置く。

2 議長及び副議長は、総会において、会員の中から選出する。

3 議長及び副議長の任期は、第28条第1項の規定を準用する。

(議長及び副議長の職務)

第16条 総会の議長は、議場の秩序を保持し、議事を整理し、会議を主宰する。

2 副議長は、議長を補佐し、議長に事故があるときはその職務を代理し、議長が欠けたときはその職務を行う。

(議長又は副議長の後任者の選出)

第17条 議長又は副議長が欠けたときは、その後任者を選出しなければならない。

(総会の任務)

第18条 総会は、次に掲げる事項を決議する。

- (1) 決算に関する事項
- (2) 会費等の賦課徴収及び減免に関する事項
- (3) 会員の除名
- (4) 理事及び監事並びに会計監査人の選任及び解任
- (5) 会長の選定及び解職
- (6) 理事及び監事の報酬等の額

- (7) 定款の変更に関する事項
  - (8) 本会の解散に関する事項
  - (9) 理事会が付議した事項
  - (10) 鹿児島県医師会代議員及び予備代議員の選出
  - (11) その他総会で決議するものとして法令又はこの定款で定められた事項
- 2 総会において、会長は、次に掲げる事項を報告する。
- (1) 第 56 条第 2 項に定める事業計画書、収支予算書等
  - (2) 第 57 条第 2 項に定める事業報告
  - (3) その他必要な会務報告

(総会の定足数及び決議)

第 19 条 総会は、会員の過半数の出席がなければ、議事を開き決議することができない。

2 総会の議事は、出席会員の過半数でこれを決する。

3 前項の規定にかかわらず、次の決議は総会員の半数以上であって、総会員の議決権の 3 分の 2 以上に当たる多数をもって行う。

- (1) 会員の除名
- (2) 監事の解任
- (3) 定款の変更
- (4) 解散
- (5) その他法令で定められた事項

(総会への出席発言)

第 20 条 役員は、総会に出席して、会員から特定の事項について説明を求められた場合には、当該事項について、必要な説明をしなければならない。ただし、当該事項が総会の目的である事項に関しないものである場合、その説明をすることにより会員の共同の利益を著しく害する場合その他正当な理由がある場合として、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則(以下「法人法施行規則」という。)で定める場合には、この限りでない。

(書面表決等)

第 21 条 総会に出席できない会員は、書面をもって表決し、又は他の出席会員を代理人として表決を委任することができる。この場合において、第 19 条の規定の適用については、出席したものとみなす。

(総会の議事規則)

第 22 条 総会の議事に関して必要な事項は、総会の決議を経て、別に定める。  
(総会議事録)

第 23 条 総会の議事については、法令で定めるところにより議事録を作成する。

- 2 総会議事録には議長及び出席した会員又は理事のうちから、その会議において選出された議事録署名人 2 人以上が署名押印しなければならない。
- 3 会長は、総会において決議した事項を速やかに会員に報告しなければならない。

## 第 5 章 役員及び会計監査人等

(役員及び会計監査人の設置)

第 24 条 本会に、次の役員を置く。

- (1) 理 事 13 名以上 19 名以内
- (2) 監 事 2 名以上 3 名以内
- 2 理事のうち、1 名を会長、2 名を副会長とする。
- 3 会長及び副会長をもって法人法上の代表理事とし、会長及び副会長以外の理事をもって同法第 91 条第 1 項第 2 号の業務執行理事とする。
- 4 本会に、会計監査人を置く。

(理事の職務)

第 25 条 理事は、理事会を構成し、法令及びこの定款で定めるところにより、職務を執行する。

- 2 会長は、本会を代表し、業務を執行する。
- 3 副会長は、会長を補佐し、業務を執行する。
- 4 理事は、理事会の決議により、分担して業務を執行する。
- 5 会長が欠けたとき又は会長に事故があるときは、副会長は、あらかじめ理事会の決議により定めた順位により、会長の職務を代行する。
- 6 会長及び副会長が欠けたとき又は会長及び副会長に事故があるときは、理事はあらかじめ理事会の決議により定めた順位により、会長の職務(本会を代表するものを除く。)を代行する。
- 7 理事は、毎事業年度に 4 箇月を超える間隔で 2 回以上、自己の職務の執行の状況を理事会に報告しなければならない。

(監事の職務)

第 26 条 監事は、理事の職務の執行を監査する。監事は、監査報告を作成しなければならない。

- 2 監事は、いつでも理事及び使用人に対して事業の報告を求め、又は本会の業

務及び財産の状況の調査をすることができる。

- 3 監事は、理事会に出席し、必要があると認めるときは、意見を述べなければならない。

#### (会計監査人の職務)

第 27 条 会計監査人は、法令で定めるところにより、本会の貸借対照表及び損益計算書（正味財産増減計算書）並びにこれらの附属明細書、財産目録、キャッシュ・フロー計算書を監査し、会計監査報告を作成する。

- 2 会計監査人は、いつでも、次に掲げるものの閲覧及び謄写をし、又は理事及び使用人に対し、会計に関する報告を求めることができる。
  - (1) 会計帳簿又はこれに関する資料が書面をもって作成されているときは、当該書面
  - (2) 会計帳簿又はこれに関する資料が電磁的記録をもって作成されているときは、当該電磁的記録に記録された事項を法令で定める方法により表示したもの

#### (役員及び会計監査人の任期)

第 28 条 理事及び監事の任期は、選任後 2 年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時総会の終結の時までとする。

- 2 理事又は監事は、第 24 条に定める定数に足りなくなるときは、任期の満了又は辞任により退任した後も、新たに選任された者が就任するまで、なお理事又は監事としての権利義務を有する。
- 3 会計監査人の任期は、選任後 1 年以内に終了する事業年度のうち、最終のものに関する定時総会の終結の時までとする。ただし、その定時総会において別段の決議がされなかったときは、再任されたものとみなす。

#### (役員及び会計監査人の選任)

第 29 条 理事及び監事は、この定款の定めるところにより、本会会員の中から、総会の決議によって選任する。ただし、監事のうち 1 名については、本会会員以外の公認会計士又は税理士を選任することができる。

- 2 前項の規定に基づく理事の選任は、会長又は理事いずれか希望する役職毎に分けて行う
- 3 前項の選任は、得票数の多い順に、定款で定められた当該役職毎の員数に達するまでの得票を得たことを条件とする総会の決議をもって行う。
- 4 前 2 項の規定に基づく理事の選任において、当選人の数が総会の決議要件を欠くために当該役職の員数に達しないときは、当選人を除く候補者のうち、

得票数の多い順に、員数に不足する数に1名を加えた数の候補者をもって、再度、前2項の規定に基づく理事の選任を行う。なお、再度の候補者を定めるに当たり、得票数が最も少ない候補者の得票数が同じであるときは、いずれも候補者とする。

- 5 第1項の規定に基づく監事の選任は、前2項の規定に準じて行う。
- 6 会計監査人は、総会の決議によって選任する。

(会長及び副会長の選任等)

第30条 会長は、総会の決議によって選定及び解職する。

- 2 前項の規定に基づく会長の選定においては、前条の規定に基づき選任された理事をもってそれぞれの候補者とする。
- 3 副会長は、前条の規定に基づき選任された理事の中から、理事会の決議によって選任及び解職する。

(役員補欠の選任)

第31条 理事又は監事が任期途中で退任したときは、なるべくすみやかに、補欠の選任を行うものとする。

- 2 前項により選任された理事又は監事の任期は、前任者の残任期間とする。

(役員親族等割合の制限)

第32条 本会の理事のうちには、理事のいずれか1人及びその親族その他特殊の関係がある者の合計数が、理事総数(現在数)の3分の1を超えて含まれてはならない。

- 2 本会の監事には、本会の理事(親族その他特殊の関係がある者を含む。)及び本会の使用人が含まれてはならない。また、各監事は、相互に親族その他特殊の関係があってはならない。

(保有株式等に係る議決権行使の制限)

第33条 本会が保有する株式(出資)について、その株式(出資)に係る議決権を行使する場合には、あらかじめ理事会において理事総数(現在数)の3分の2以上の承認を要する。

(役員及び会計監査人の解任)

第34条 理事及び監事並びに会計監査人は、総会の決議によって解任することができる。

- 2 監事は、会計監査人が次のいずれかに該当するときは、監事全員の同意に

より、会計監査人を解任することができる。この場合、監事は、解任した旨及び解任の理由を、解任後最初に招集される総会に報告するものとする。

- (1) 職務上の義務に違反し、又は職務を怠ったとき
- (2) 会計監査人としてふさわしくない非行があったとき
- (3) 心身の故障のため、職務の執行に支障があり、又はこれに堪えないとき

(役員及び会計監査人の報酬)

第 35 条 理事及び監事に対して、総会において定める総額の範囲内で、総会において別に定める報酬等の支給の基準に従って算定した額を報酬等として支給することができる。

- 2 会計監査人に対する報酬等は、監事の過半数の同意を得て理事会において定める。

(役員及び会計監査人の責任免除)

第 36 条 本会は、法人法第 114 条第 1 項の規定により、任務を怠ったことによる理事及び監事又は会計監査人（理事及び監事又は会計監査人であった者を含む。）の損害賠償責任を法令の限度において理事会の決議によって免除することができる。

(顧問)

第 37 条 本会に、任意の機関として若干名の顧問を置くことができる。

- 2 顧問は、総会の決議を経て、会長が委嘱する。
- 3 顧問の任期は、会長の任期による。
- 4 顧問は、次の職務を行う。
  - (1) 会長の相談に応じること
  - (2) 理事会から諮問された事項について参考意見を述べること

(参与)

第 38 条 本会に、任意の機関として若干名の参与を置くことができる。

- 2 参与は、理事会の決議を経て、会長が委嘱する。
- 3 参与の任期は、会長の任期による。
- 4 参与は、会長の定めるところにより、専門的事項について会務に参画する。

## 第 6 章 理事会

(理事会)

第 39 条 本会に理事会を置く。

- 2 理事会は、理事をもって組織し、会長が招集し、その議長となる。
- 3 会長以外の理事から会議の目的である事項を記載した書面をもって会長に招集の請求をした場合において、その請求があった日から5日以内に、その請求があった日から2週間以内の日を理事会の日とする理事会の招集の通知が発せられない場合には、その請求をした理事は、理事会を招集することができる。
- 4 会長が欠けたとき又は会長に事故があるときは、副会長が理事会を招集する。
- 5 理事会は、理事の過半数の出席がなければ、開会することができない。理事会の決議は、議決に加わることができる理事の過半数が出席し、その過半数をもって行う。

(理事会の任務)

第40条 理事会は、次の職務を行う。

- (1) 本会の業務執行の決定
  - (2) 理事の職務の執行の監督
  - (3) 副会長の選任及び解職
- 2 理事会は、次に掲げる事項その他の重要な業務執行の決定を、理事に委任することができない。
- (1) 重要な財産の処分及び譲受け
  - (2) 多額の借財
  - (3) 重要な使用人の選任及び解任
  - (4) 従たる事務所その他重要な組織の設置、変更及び廃止
  - (5) 内部管理体制の整備（理事の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制その他本会の業務の適正を確保するために必要な法令で定める体制の整備）
  - (6) 法人法第114条第1項の規定による定款の定めに基づく同法第111条第1項の責任の免除
- 3 理事が理事会の決議の目的である事項について提案をした場合において、当該提案につき議決に加わることができる理事の全員が書面又は電磁的記録により同意の意思表示をしたときは、当該提案を可決する旨の理事会の決議があったものとみなす。ただし、監事が異議を述べた場合は、この限りでない。

(理事会への報告の省略)

第41条 理事及び監事又は会計監査人が理事及び監事の全員に対して理事会に報告すべき事項を通知したときは、当該事項を理事会へ報告することを要し

ない。ただし、法人法第91条第2項の報告については、この限りでない。

(理事会への出席発言)

第42条 総会の議長は、理事会に出席して、意見を述べることができる。

(議事録)

第43条 理事会の議事については、法令で定めるところにより議事録を作成し、出席した会長、副会長及び監事は、これに署名・押印しなければならない。

## 第7章 裁定委員会

(裁定委員会)

第44条 本会に、裁定委員会を置く。

2 裁定委員会は、11名の裁定委員をもって組織する。

(裁定委員の選任)

第45条 裁定委員は、本会会員の中から、総会において選任する。

(裁定委員の任期)

第46条 裁定委員の任期は、第28条第1項の規定を準用する。

2 任期の満了又は辞任により退任した裁定委員は、後任者が選任されるまでは、引き続きその職務を行うものとする。

(裁定委員の兼職禁止)

第47条 裁定委員は、本会の役員並びに他の医師会の役員及び裁定に関する委員を兼ねることができない。

(身分に関する裁定)

第48条 裁定委員会は、次の各号に掲げる事項について、審議しその裁定を行う。

(1) 第7条第4項(除名者の再入会)の規定による会員の再入会に関する事項

(2) 第12条第6項(会員の制裁)に規定する会員の制裁に関する事項

(3) 会員の身分又は権利義務についての疑義に関する事項

2 前項の裁定を行うに当たっては、当該会員に対して、弁明の機会を与えなければならない。

(紛議に関する調停)

第 49 条 裁定委員会は、会員相互間その他の紛議に関する事項について、審議しその調停を行う。

(裁定委員会に関する規則)

第 50 条 裁定委員会に関して必要な事項は、総会の決議を経て、別に定める。

## 第 8 章 委員会

(委員会の設置)

第 51 条 会長は、本会の事業の円滑な運営を図るため、理事会の決議により、委員会を設置することができる。

2 委員会の委員は、理事会において選任する。

3 委員会の任務構成及び運営に関する必要な事項は、理事会の決議により別に定める委員会規程によるものとする。

## 第 9 章 団体契約及び意見表明

(団体契約)

第 52 条 本会は、社会福祉、社会保険及び公衆衛生上必要な事項について、団体契約を締結することができる。

(行政庁等に対する意見表明)

第 53 条 本会は、第 3 条の目的達成のために必要があると認めるときは、行政庁その他の関係者に対して意見を述べることができる。

## 第 10 章 資産及び会計

(本会の経費)

第 54 条 本会の経費は、会費、負担金、賛助金、寄附金その他の収入金をもって充当する。

(事業年度)

第 55 条 本会の事業年度は、毎年 4 月 1 日に始まり、翌年 3 月 31 日に終わる。

(事業計画及び収支予算)

第 56 条 会長は、毎事業年度の開始の日の前日までに、事業計画書、収支予算書並びに資金調達及び設備投資の見込みを記載した書類を作成し、理事会の承認を経なければならない。これを変更する場合も、同様とする。

- 2 前項の書類は、理事会の承認を経た後、総会に報告するものとする。
- 3 第1項の書類は、当該事業年度開始の日の前日までに行政庁に提出するものとし、かつ、当該事業年度が終了するまでの間主たる事務所に備え置き、一般の閲覧に供するものとする。

(事業報告及び決算)

第57条 本会の事業報告及び決算については、毎事業年度終了後、会長が次の書類を作成し、監事の監査を受け、かつ、第3号から第7号までの書類については会計監査人の監査を受けた上で、理事会の承認を受けなければならない。

- (1) 事業報告
  - (2) 事業報告の附属明細書
  - (3) 貸借対照表
  - (4) 損益計算書（正味財産増減計算書）
  - (5) 貸借対照表及び損益計算書（正味財産増減計算書）の附属明細書
  - (6) 財産目録
  - (7) キャッシュ・フロー計算書
- 2 前項の承認を受けた書類のうち、第1号、第3号、第4号、第6号及び第7号の書類については、定時総会に報告するものとする。ただし、法人法施行規則第48条に定める要件に該当しない場合には、第1号の書類を除き、定時総会の報告に代えて、定時総会の承認を受けなければならない。
  - 3 第1項の書類のほか、次の書類を主たる事務所に5年間備え置き、一般の閲覧に供するとともに、定款、役員及び会員名簿を主たる事務所に備え置き、一般の閲覧に供するものとする。
    - (1) 監査報告
    - (2) 会計監査報告
    - (3) 理事及び監事の名簿
    - (4) 理事及び監事の報酬等の支給の基準を記載した書類
    - (5) 運営組織及び事業活動の状況の概要及びこれらに関する数値のうち重要なものを記載した書類
  - 4 第1項各号及び前項各号の書類並びに会員名簿は、当該事業年度経過後、3箇月以内に行政庁に提出しなければならない。
  - 5 貸借対照表は、定時総会終結後遅滞なく、公告しなければならない。

(剰余金の分配の禁止)

第58条 本会は、剰余金の分配を行うことができない。

(財産の管理責任)

第 59 条 本会の財産は、会長が管理する。

(会計の規程等)

第 60 条 会計に関して必要な事項は、別に定める。

(公益目的取得財産残額の算定)

第 61 条 会長は、公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律施行規則の規定に基づき、毎事業年度、当該事業年度の末日における公益目的取得財産残額を算定し、第 57 条第 3 項第 5 号の書類に記載するものとする。

## 第 11 章 事務局

(事務局)

第 62 条 本会に、事務局を置く。

2 本会に、理事会の決議を経て、事務局長を置く。

3 本会の事務局の職制に関して必要な事項は、理事会の決議を経て、会長が定める。

## 第 12 章 雑 則

(公益目的取得財産残額の贈与)

第 63 条 本会が公益認定の取消しの処分を受けた場合、又は合併により消滅する場合（その権利義務を承継する法人が公益法人であるときを除く。）において、公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律（以下「認定法」という。）第 30 条第 2 項に規定する公益目的取得財産残額があるときは、総会の決議を経て、これに相当する額の財産を 1 箇月以内に国若しくは地方公共団体又は同法第 5 条第 17 号に掲げる法人に贈与するものとする。

(残余財産の帰属)

第 64 条 本会が解散等により清算をする場合において、残余財産があるときは、その残余財産は総会の決議を経て、国若しくは地方公共団体又は認定法第 5 条第 17 号に掲げる法人であって租税特別措置法第 40 条第 1 項に規定する公益法人等に該当する法人に贈与するものとする。

(定款施行細則)

第 65 条 この定款の施行に関して必要な事項は、総会の決議を経て、別に細則で定める。

(公 告)

第 66 条 本会の公告は、電子公告により行う。

- 2 事故その他やむを得ない事由によって前項の電子公告をすることができない場合は、鹿児島県において発行する南日本新聞に掲載する方法による。

(委 任)

第 67 条 この定款に定めるもののほか、本会の運営に必要な事項は、理事会の決議により別に定める。

附 則

(施行期日)

- 1 この定款は、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律及び公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律の施行に伴う関係法律の整備等に関する法律（以下「整備法」という。）第 106 条第 1 項に定める公益法人の設立の登記の日から施行する。

(会長等に関する措置)

- 2 この法人の最初の会長は八木幸夫、副会長は川原和也、井料 宰、理事は徳田和信、小牧伸一郎、伊東幸彦、北原琢磨、佐藤昭人、重田浩一朗、田代達也、永田智之、林 芳郎、濱田慎二、山元慎一、吉留五十二、監事は田中啓三、川邊 茂、会計監査人は中崎隆穂とする。

(役員任期に関する措置)

- 3 この定款施行の後、最初に選任する理事の任期は選任後 1 年以内に終了する最終事業年度に関する定時総会終結の時までとし、最初に選任する監事の任期は選任後 3 年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時総会終結の時までとする。

(総会の議長及び副議長)

- 4 この定款施行の際、現に議長及び副議長の職にある者は、改正後の定款の規定に基づき、総会において、議長及び副議長に選任されたものとみなす。

(裁定委員に関する経過措置)

- 5 この定款施行の際、現に裁定委員の職にある者は、改正後の定款の規定に基づき、総会において、裁定委員に選任されたものとみなす。

(顧問に関する経過措置)

- 6 この定款施行の際、現に顧問の職にある者は、改正後の定款の規定に基づき、顧問として任命されたものとみなす。

(参与に関する経過措置)

- 7 この定款施行の際、現に参与の職にある者は、改正後の定款の規定に基づき、参与として任命されたものとみなす。

(委員会委員に関する経過措置)

- 8 この定款施行の際、現に委員会委員の職にある者は、改正後の定款の規定に基づき、委員会委員として任命されたものとみなす。

(職員に関する経過措置)

- 9 この定款施行の際、現に本会の職員である者は、従前と同等の勤務条件をもって、改正後の定款の規定に基づき、事務局職員として任命されたものとみなす。

(計算書類等の作成等に関する経過措置)

- 10 整備法第106条第1項に定める特例民法法人の解散の登記と、公益法人の設立の登記を行ったときは、第55条(事業年度)の規定にかかわらず、解散の登記の日の前日を事業年度の末日とし、設立の登記の日を事業年度の開始日とする。

参考 平成25年4月1日 制定

(附 則)

この改正定款は、平成28年4月26日から施行する。